

「デシエ市のチェシャ財団障害者支援センターに対する障害児用中古車椅子供与計画」

事業完了報告（写真）



デシエ市のチェシャ財団障害者支援センターの活動拠点はアジスアベバから北北東約 350 km 車で約 7 時間、高度 2500m の高原にある人口約 25 万人の町にあります。



2016 年 2 月 23 日、デシエ市のチェシャ財団の義足工場でチェシャ財団モハメッド理事長をはじめ幹部、デシエ市行政福祉部門の責任者、日本大使館一等書記官それに障害児と保護者を合わせて約 70 名を招いて 160 台の障害児用車椅子の贈呈式を開催しました。



贈呈式ではチェシャ財団の理事長から、日本からの障害者支援に感謝の言葉を述べられ
日本大使館山田 1 等書記官からは日本の海外開発援助で NGO 支援をしていることを説明されました。



当会森田会長からは日本の車椅子の提供者の気持ちを伝え、車椅子によって健康助長と自立支援に活用
されて地域での福祉開発に貢献したいことと、さらに当会の専門家からは当会活動の使命や活動状況を
伝え、車椅子を正しく大切に使ってほしいことを伝えました。



チェシャ財団からデシエ近郊の地域でのリハビリテーションや障害についての周知と啓蒙活動を通
じて障害者の生活改善と社会参加と自立を促す包括的な活動内容の説明を受け、当会からは維持管理、
受益者の名簿管理を確認し、保守についての技術指導と修理の際の部品供与の方法を伝えました。
また 1 年後にプロジェクトの検証と評価をすることを確認しました。

ほとんど子ども用車椅子のない地域に 160 台の車椅子を供与して、緊急に車椅子を必要とする約 64% の子ども達に届けました。



チェシャ財団デシエ活動センターと保護者と貸与契約を交わして適合した車椅子を引き渡しました。



生まれて初めて車椅子にのって喜ぶ子ども達



全ての車椅子に日の丸のステッカー貼付



車椅子を受け取り喜ぶ母親



車椅子に座って得意げな顔をしている子ども

障害児の家庭訪問：生活の実態調査と車椅子の効果と有効な使い方の指導



山間の村落に住むジェマール君（8 歳）の家庭を訪ねて車椅子の使い方を母親に説明、車椅子で外出できて近所の子ども達との交流が出来るようになったと母親が喜んでいました。



チェキュウブ君（1 歳半）は母子家庭で、母親は車椅子によって自分の負担が大きく軽減されて、日本からの車椅子を大切に使うと感謝していました。



メサッド君（4 歳）の祖母が車椅子のお蔭で母親にゆとりが出ると、涙して喜んでいた母親を元気つけていました。



レハナちゃん（13 歳）の家は山の崖にあり、外出には不便な場所だが、車椅子で戸外で新鮮な空気と日光浴で笑顔になると父親が感謝していました。



のんびりした惣村では人々の心も温かく、障害のある子にも親しく接してくれている。



シラムラク君（7 歳）は教員の父親と主婦の母親と暮らす。月収は 2,500 ブル、民間の借家で月 500 ブル。車椅子で母親の介助の負担が慧眼され、子どもを清潔に保つことが出来るにも役に立っていると祖母も喜んでくれました。

以上